

## 要 旨

当論文は、日本の上場企業と銀行との間における長期ローン取引関係の安定性を、実証的に分析したものであり、日本の銀行ローン市場に関するユニークなデータセットにサバイバル分析の手法を適用することで、取引関係の蓄積を通じて、関係のハザード（翌一期間に關係が解消する確率）が如何なる動態的特徴を示すかを検討している。具体的には、各種の手法に基づく推計から、①当該ハザードが取引関係の長さに対して逆 U 字型を示すこと、また、②当該ハザードが、個々の企業、銀行、企業－銀行マッチの特性、マクロ変数、制度要因（直接金融市場の発展度合い等）といった変数へ、システムティックに依存することを確認している。特に前者は、一定の取引期間を経た後に、企業－銀行間の取引関係が安定化し始めることを示唆しており、既存の理論研究で議論されている「関係特殊資産」の存在を間接的に支持するものと考えられる。

キーワード：リレーションシップ・レンディング、安定性、サバイバル分析

*JEL classification* : G21;G32;C41